

第 92 回 東葛しぜん研修観察会

自然豊かな利根運河・理窓公園で春を満喫

前田悦子（千葉市）

日 時：2021 年 4 月 11 日（日）9 時 30 分～13 時 30 分

場 所：利根運河～理窓公園、参加者：19 名、担当指導員：木村 前田 渋谷

東葛しぜん観察会ではなじみ深い利根運河と理窓公園、運河土手の右岸から春探し開始です。カラスノエンドウの仲間見～つけた！カラス・スズメ・カスマを並べ、花・花の付き方・葉・果実を比べてみます。カラスノエンドウの拓葉にある蜜腺はアリを呼んで、新芽や葉を食べにくる虫から身を守っています。でもカラスノエンドウに来るアブラムシはアリが大好きな甘い排泄物をだすため、アリがアブラムシを追い払うことはありません。

カラスムギの熟した小花(種子)に雨を降らせ 変化を観察。こよりのように振じられている長い芒は、雨に濡れ こよりがほどけることで 回転しながら土に潜り込んでいきます。イネ科のハルガヤ・コウボウはクマリンの香りがします。

ギシギシの葉を網々にしたのは甲虫のコガタルリハムシ。春一番に地上に現れた成虫がギシギシの葉を食べて卵を産み、孵った幼虫もギシギシの葉を食べて成虫に→土の中にもぐり蛹に→1週間後羽化し新成虫に→地上で 1 週間活動→再び土中にもぐり夏・秋・冬を成虫休眠しまっ。

タンポポ・オオジシバリ・ニガナ・オヘビイチゴ・キジムシロ・ミツバツチグリなど鮮やかな黄色が目立ちます。従来オニタビラコとされていたもので、茎や葉が紫色を帯びて毛が多く 4～5 月に花が咲くアカオニタビラコは越年草、茎にほとんど葉がつかず 基部で多数枝分かかれし 夏・秋にも花が咲くアオオニタビラコは多年草と生活史に違いがあることがわかり、2 種に区別されるようになりました。

オオイヌノフグリの仲間 タチイヌノフグリの小さな小さな花は ルーペで観察、果実は「平たいハート型」、最近よく見かけるコゴメイヌノフグリの果実は「コロンとして毛だらけ」。鳥媒花ヤブツバキに顔を寄せ、鼻の頭に黄色い花粉をつけながらにおいを体感。鳥媒花に赤い花が多いのはなぜ？

アマナ・イチリンソウ・ニリンソウ・ジロボウエンゴサク・ヤマブキソウ・ツマキチョウなどスプリング・エフェメラルも確認しました。

林の中には樹木の外生菌根菌と共生しているキンラン・ギンランがニョキニョキ。

3 月のキノコ研修会で吹春先生に教えていただいた菌根菌、理窓公園の林一面に広がっているようです

ヨーロッパ原産のオオアマナがそこここに。明治時代末期に観賞用として日本に入ってきたものが野生化したもの。キジカクシ科の植物で鱗茎には毒があります。

コロナ感染が心配される中で行われた研修会でした。土手のオオシマザクラが葉桜になっているなどいつもより春の訪れが早いようでしたが、指導員それぞれ旺盛な好奇心を発揮。たくさんの春——ここにあるのはほんの 1 部——を探ることができた一日となりました。



カラスムギの小花(種子)に雨を降らせ 変化を観察